

科目名	老年看護 I (老年看護概論・在宅看護)					DP3 DP4 DP5 DP6	看護高等課程
学年	1年	分野	専門 老年看護	時間数	20時間	担当 教員	市川 豊子
科目 概要	老年期にある高齢者を身体的・精神的・社会的側面から総合的に捉え、高齢者の特徴を学び、加齢に伴う身体機能の変化や認知機能の変化、加齢に伴う心理・社会的機能の変化、多様な生活の場での高齢者の健康を支える看護について学ぶ。また、健康状態や受療状態に応じた高齢者の看護、高齢者に関連する保健医療福祉制度や地域包括ケアについて学ぶ内容とした。						
到達 目標	1. 高齢者をとりまく社会・保健・医療・福祉の動向を理解する。 2. 老化に伴う身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 3. 高齢者の生活を維持するための看護を理解する。 4. 高齢者を介護する家族の看護を理解する。						
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員
1~10	高齢者の理解	高齢者とからだ、高齢者の心理的・精神的特徴、 高齢者と社会、総合的な高齢者の理解				講義 演習	市川
	高齢社会の医療と看護	少子・高齢社会の理解、高齢者の健康問題、高齢者に対する保健・医療・福祉の現状 高齢者看護の機能と役割、変化する高齢者看護の場					
		高齢者の特性を踏まえた 看護の視点	高齢者の生活と健康、健康障害をもつ高齢者の身体的特徴・心理的特徴、高齢者看護の目的と基本的アプローチ				
	高齢者の特性を踏まえた 看護の場	医療施設における看護、在宅看護					
	高齢者の在宅療養と看護	在宅看護の概念、在宅療養を支える看護、在宅療養者の家族への看護 在宅看護の事例（退院調整と社会資源、継続看護、社会資源マップ作製）					
	終末期の看護	高齢者の終末期看護、 別れを迎えるとき（エンドオブライフケア） 遺族のケア、看取りを終えた家族への看護					
	試験					試験	
評価 基準	100点満点とし、6割以上を合格とする。また、授業時間数の3分の2以上の出席が必要となる。 筆記試験、出席状況と演習への参加態度、パフォーマンス課題やルーブリック評価に基づき内容等を吟味して総合的に評価を行う。						
評価 方法	出席状況と講義演習への参加態度、課題レポート、筆記試験などで総合的に評価する。						
教科書	看護学入門 11 老年看護 看護学入門 7 基礎看護Ⅲ 臨床看護概論 必要時、資料等は配布する。						
履修上の 注意点							